

テ金額以算、於ア兼氏 月日十日ノル半 但会社規定、  
退職慰労金ハ別ニ支給シ

(2) 事務費用の支給セ

支給額中、日給、支給セ

但レニ三シ一施ミテ一万五千円タク半

右ニ付ニ事業主側ニテハ会社、賃率ト余リニ距离アリトテ  
争議固側、考慮シ促シ会見ヲ計切リ其後徹夜ニテ數次会見  
折衝(其)間争議固代表ニハ多歩ノ累動マリ遂ニ午前  
六時十五分第十一回目、会見ヲ為シ

人總成解雇者ハ実績上普通解雇者ト全株式取扱フ

2.解雇半當一人当リニ百四十少給久

但シ法定布告半當ハ別ニ支給ス

3.退職慰労金ハ之ヲ支給ス

4.家族見舞金トシテ工人全員ニ付シ一人当個人給、五日介

(2) 事業主側  
支給ス、事業ニ委嘱成立金十八分会見ヲ了レリ

事業主側ニテハ右会見アルヤ直ケ別記ヘ、如キ声明書ヲ  
發表シ尙株主道半條方面ニ接觸状ヲ發送ス

(3) 勞働者側

A.斗争委員会ニテハ廿八日別記ヘ、如キ日報等外ヲ配布シ  
第一七所第二化所(中心ハ左翼分子合法非法共)ハ別  
記(10)、如キ二二一久シ配布シ安撫反対ノ氣勢ヲ煽リタリ  
既化所大會

廿八日前十一時ヨリ各化所、若ケ化所大会シ開催シ解  
決条件ヲ討議シ第二行至第四化所ハ即時解決条件シ兼親  
タルニ第一七所ニテハ之ヲ兼親也又争議継続シ決議シ  
タルニ以テ、首脳部吉田潔、保利萬山、眞藤武次ハ急被  
全元所ニ趣キ雅々説得シ全化所員モ遂ニ兼親セリ